



カルルスへチャレンジ!!

豊かな登別の自然を再発見しようと「ふるさと歩こう会」が6月24日行われました。市制20周年を記念して実施したこの事業は、市営陸上競技場から札内台地を抜けカルルス温泉まで13.5^{km}を歩くもので、4歳の女の子から78歳のおじいちゃんまで約170人が参加。

3時間半余りでカルルスに着いた参加者は、温泉で汗を流し登別山岳会手づくりの豚汁に舌つづみを打っていました。

NOBORIBETSU

広報
のぼりべつ

'90.8.1

No.478

① ■人口/56,447 ■世帯/19,540 (前月比=人口 +48・世帯 +54) 平成2年6月末現在

登別マリンパーク

待望の オープン!



七月二十日(金)に、待望の「登別マリンパークニクス」がオープンしました。

オープン当日は、温泉小学校の鬼っ子マーチングバンドの演奏に乗り登別駅前からオープニングパレードが行われた後、馬に乗ったバイキングが正面ゲートのカギを持って現れ、関係者により開城されました。

セレモニーを見守っていた観光客約五百名が次々に入城し、初日の入城者数は五千人にもなりました。

ニクス城の幻想的な雰囲気、「きれい」と声を上げ、イルカやアシカのショーには歓声が沸き上がっていました。

登別観光の期待を集めたマリンパーク。駅前からマリンパークへの通りはメルヘンストリートと名



付けられ、今までとは違った街並みを作り、沿道の商店などもメルヘンストリートにふさわしい店舗構成にするなど、登別は変わりつつあります。

また、オープンに先立ち、七月十五日に歓迎セレモニー「ウエルカムニクス祭」も行われ、地域を挙げてマリンパークのオープンを歓迎しています。

ふれあいと
対話が築く
明るい社会

第四十回
社会を明るくする運動



今年で四十回目を数える「社会を明るくする運動」の街頭パレードが、七月十二日(木)に若草地区

で行われました。

開会式に続き行われたパレードに参加した二千人の市民は、「住み良く明るいまちづくり」や「交通安全」を願い約二十分弱を行進し、道行く市民に訴えました。

パレード終了後は、若草小学校グラウンドで道警カラーガード隊と音楽隊によるドリル演奏が行われ、カラフルな彩りがこの運動に花を添えました。

たくさん来てね
小鳥さん

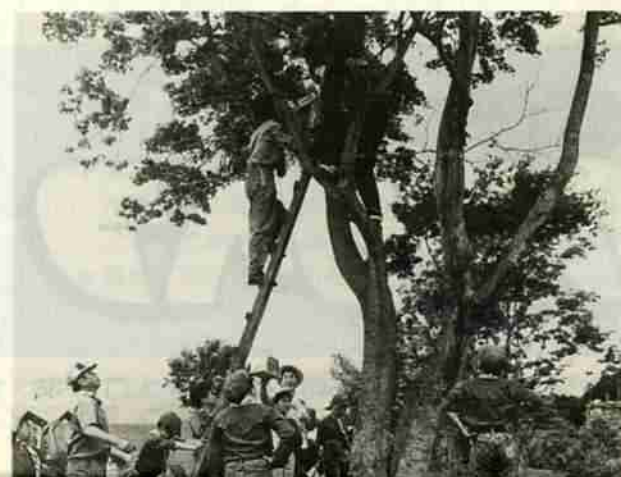


六月二十四日(日)。日本ボーイスカウト登別第一団の隊員たちが市内の川上公園などに五十個の巣箱を掛けました。

愛鳥精神、自然を愛する心を養うのを目的に、一年おきに行われている巣箱掛。ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、シニア隊から参加した五十名余りの隊員は、一個一個丁寧に作り付けました。

幌別川河川敷での昼食は、自らの手で作った豚汁や野菜いためな

ンブル



どで、和気あいあいの楽しいひとときでした。

スピードを 出さないで!!



交通事故死全国一を走り続ける北海道。そんな中で市内の国道三十六号線の沿道にある四小学校の児童が、交通安全に一役買おうと「二六〇三チビッコ大作戦」と名付けた交通安全啓発を行いました。七月十八日に行われたこの運動は、参加小学校の児童総数から一六〇三と呼ばれ、この日午前十一時半から一斉に国道沿いで作戦を開始しました。

黄色い小旗とタスキ姿の子供たちに安全を呼び掛けられたドライバーは、スピードを緩めて通過し、効果は上々でした。

第八回

のぼりべつ 提燈まつり

夏の風物詩「提燈まつり」が、七月二十、二十一日に行われました。初日となった二十日は工学院祭前夜祭も行われ、歩行者天国では工学院の寮生による綱引き、また



午後七時からは鬼踊り、八時から来馬川を幻想的なムードに変える螢川、八時半からは工学院の花火大会など盛りだくさんの催しが市民を楽しませました。十九日からの暑さも手伝い、夜遅くまでにぎわいをみせていました。

観光 ボランティアガイド 始動

「観光客を温かくもてなすホスピタリティー運動を市民ぐるみで推進しよう」を合い言葉に結成された「登別市観光ホスピタリティー

推進協議会。

この会の観光ボランティアガイド養成講座の受講生による実践活動が七月七日よりスタートしました。

胸に「私のご案内します」と書いたかわいらしい鬼のワッペンと観光ボランティアガイドと書いた腕章を付けたガイドさんは、団体客などに笑顔で応対。飾らない説明がいと好評でした。

同ガイドは毎週土日を中心に十月末まで、一日につき三名程度で活躍する予定です。



わ だ い
スクラ

市制施行20周年記念

鬼サミット・登別

オニさんこちら地獄谷

湯煙がたち昇る全国屈指の温泉郷、のほりべつ。年間三百四十万人の観光客が訪れるこの登別温泉で、「オニさんこちら/地獄谷」をサブタイトルに八月二十四日から二十六日までの三日間、「鬼サミット・登別」が開催されます。

この催しは、登別温泉のシンボルである「鬼」をテーマに、全国各地に伝わる鬼伝説や鬼芸能などを一同に集め、多彩な催しを通して鬼とは何かを考えながら、新たな観光振興、まちづくり気運の盛り上げを図ることをねらいとしています。全国で初めての試みであり、市制施行二十周年と共に登別の歴史に新たな一ページが加わります。

「鬼サミット・登別」は、今年二十七回目を迎える登別温泉地獄まつりのメインイベントとして企画されました。

登別温泉のシンボルである地獄谷を舞台に全国の諸々の鬼に関するものを集約し、鬼について考え、楽しみながら二十一世紀に向けた地域文化を創造し、活性化に結びつけようとするものです。

実施にあたるのは、観光関連団体や民間団体、報道機関、それに市などで組織する「鬼サミット・登別実行委員会」で登別温泉街と市民会館を会場に開催します。

登別温泉にはじめて「鬼」が登場したのは、今から二十七年前。第一回登別温泉地獄まつりの企画が検討された時にさかのぼります。もともと登別に鬼にまつわる伝

説などがあつた訳ではありませんが、登別について書かれた古文書などに「地獄谷」や「三途の川」の記述があつたことから鬼のイメージが発想されました。それ以来登別温泉にとって鬼は重要なキャラクターとなりました。

「鬼」は、日本人の長い歴史の中で、うとまれたり、恐れられたり、時には同情されながら人々の心の中に生き続けており、鬼サミット・登別では、それぞれの鬼について考えることで「文化を見直す」契機となるでしょう。

「鬼サミット・登別」は全体を五つの企画で構成しています。内容は、全国百四十五市町村から鬼に関する情報を集め鬼マップを発行したりする「情報編」。本市を含め全国の鬼にまつわる自治体の首

オニさんこちら/地獄谷



鬼サミット・登別
1990.8.24~26

●主催
鬼サミット・登別実行委員会
〒059-1 登別市登別温泉町六十番地

HOKKAIDO NOBORIBETSU

〈鬼サミット・登別〉のポスター

長による全国首長鬼サミットや文化講演会、パネルディスカッションを行う「文化・まちおこし編」。各地の鬼に関する民族芸能披露や有名芸能人による芸能ショーを実施する「鬼芸能編」。市民が参加して楽しむ「鬼遊び・まつり編」、「鬼物産編」では、全国各地の民芸品や酒類の展示販売が行われるなど多彩な催しが予定されています。

◎鬼文化講演会と鬼パネルディスカッション

ののご案内

▼日時 八月二十五日(土) 午後二時~午後五時

▼場所 市民会館

▼講演者 小松和彦氏(大阪大学)

文学部助教授)

▼パネラー 永井豪氏(マンガ家) 中島梓氏(作家)、沼田曜一氏(俳優)

▼入場料 無料(先着順)

※当日は会場が混み合う事も予想されますので予約席の受け付けをします。

▼応募方法 往復はがきで「鬼文化講演、パネルディスカッション応募」と書いて応募ください。

▼応募先 「鬼サミット・登別」実行委員会事務局宛(〒059-1 05 登別市登別温泉町六十番地 登別観光会館二階)

▼応募期間 八月一日(水)~八月十日(金)

「鬼サミット・登別」

キャラクター決定!!

応募総数二千二百七十九名の中から小学生の部が佐藤加奈子さん（登小四年）、中学生の部が北野薫

創作民話

「お湯の国の神様たち」

市職員有志で組織している「祭興会（お祭りクラブ）」は、最近「お湯の国の神様たち」と題した創作民話の原案を作りました。この「祭興会」は、各種イベントへの参加や文化活動を通してまち興しに貢献しようと昭和六十三年に結成されたものです。

このほど創作した民話は、なぜ登別温泉と鬼が結びつくのか、地獄まつりに鬼が登場するのはなぜなのかということのひとつの根拠付けとして作り上げたもの。今後市民に紹介し批評を受けて完成したいとしています。

「お湯の国の神様たち」のストーリーは、この世の楽園であった登別が、ある年、長雨続きのため食べ物となくなり、他人の物を奪い取るなど人間の心に「鬼」が現れ、それが「赤鬼と青鬼」となって人々を苦しめました。困った人々は「蝦夷の神」に助けを求め、二人の若者を神の住む山・カムイヌプリへ行かせます。「蝦夷の神」は考えて日本各地の守り神

（西陵中一年）の作品です。八月四・五日と、「鬼サミット・登別」の期間中市民会館で展示します。

となつてゐる「七福神」の助力で鬼たちを退治しました。鬼たちはいままでの行いを反省し、償いとしてお湯を神に捧げ、神々は痛めた体をお湯でいやしました。痛めたところの違いによってお湯の色が変わっていったのです。神々は改心した鬼から全部のお湯をとり上げるのもかわいそうに思い、赤鬼と青鬼にひとつずつくれました。皆んなで助け合つて生きていくと誓つた人間にもひとつ与えてくれました。鬼は、すばらしいお湯を守るよう神々によって「像」にされ、地獄谷の入口に置かれ、一年に一度、三日間だけ自由を与えられました。この三日間が「地獄まつり」の日、といった内容になっています。

この他、紅葉谷は神々と鬼たちの戦いで引き裂かれた大地、大きな岩を取りあげた跡が大湯沼、根こそぎ持ちあげた山跡は札内台地など、登別の地名をそれぞれ盛り込んで作り上げています。

鬼サミット・登別 事業実施計画表

月日	平成2年 8月24日(金)	8月25日(土)	8月26日(日)
	登別温泉	登別温泉	登別温泉
	登別市民会館	登別市民会館	登別市民会館
10:00		10:00 全国首長鬼サミット 第一鬼本館	10:00 全国芸能フェスティバル 大ホール
11:00		鬼物産展・鬼写真展	鬼物産展・鬼写真展
12:00			11:45 地獄まつり大パレード 鬼みこし暴れねりこみ 鬼おどり
13:00		鬼あそび 地獄登り鬼の 争奪引大会	12:00 NHK 衛星生放送
14:00		鬼ごっこ 鬼顔絵落書大会	鬼あそび 地獄登り鬼の争奪引大会 鬼つ子賽取り ところろんレース 鬼顔絵落書大会 鬼もひつくのフルラビンゴ 鬼わらいジャンケン大会
15:00		鬼芸能 鬼つ子マーチング 演劇大会 鬼軍曹三二演劇会	鬼芸能 伊藤多喜雄 坂田明 鬼興現 現代人劇く鬼発表
16:00		鬼物産展・鬼写真展	鬼物産展・鬼写真展
17:00			
17:20	地獄谷施餓鬼祭		
18:00	開催レセプション		
19:00	鬼みこし登壇入魂式	18:30 前触れパレード 全国鬼パレード 鬼仮装大会 鬼みこし暴れねりこみ	18:30 前触れパレード 地獄まつり大パレード 鬼みこし暴れねりこみ
19:10	テープカット オープニングパレード 鬼みこし暴れねりこみ		
19:50	前触れ百太鼓		
20:00	鬼踊り大群舞		
20:20		前触れ百太鼓	前触れ百太鼓
21:00		鬼踊り大群舞	鬼踊り大群舞
21:30			
22:00			鬼みこし退場昇天式

増え続けるゴミ

リポーター 中川 たみ子

私たちの

子孫のために……

今、私達のまわりには環境汚染、自然破壊、エネルギー問題と多くの不安材料がありますが、どれも文明の発達と引きかえに起きてきたことばかりです。豊かな生活、豊かな社会を目指して突っ走ってきたつもりが、一番大切な何かを振り落してしまったのかも知れません。特に国土の狭い日本で、これ以上資源の無駄使いができません。事は衆目の事実です。

今回、文明の落し子のひとつ、「増え続けるゴミ」について考えてみました。

まず、登別市の現状はどうでしょうか。

家庭から出る一年間のゴミの量が一万九千ポンド。この処理に係る費用が約三億円。ここ四、五年人口が減っているにもかかわらずゴミは増え続けています。一日に燃やすゴミは四、五十トという事ですが、焼却炉を購入するのに十二、三億円もするのをご存じですか？私達がゴミを出す時の分別（燃やせるゴミと燃やせないゴミ）が不徹底なため、炉の痛み方に直接影響して無駄な税金を使わなければなりません。燃やせないゴミを埋めている千歳町の最終処分場は、あと五、六年で満杯になりそうな状況です。

今、市は十五年先を見越した一般廃棄物の規制等、基本計画を立てているとの事。また、分別収集のパンフレットを配布する予定とか。しかし、市の行政に任せっ放していいのでしょうか。少なくとも私達市民が出来得るほんのささいな努力が将来を左右するのだと認識することが第一と言えるかも知れません。

美しい自然に恵まれた道内でも有数の観光都市「登別」を守るためには、市民と行政が一体となって取り組んでいく必要を痛切に感じます。

各ボランティアグループ、町内会、PTA等で廃品回収、リサイクル運動と各地域で頑張っている方々がたくさんおられますが、その輪をつなげていって全市民の大

きなひとつの輪にできたなら、と願わずにいられません。

他市でも様々な知恵を出し合っ

て取り組んでいる事を知りました。例えば、埼玉県川口市の川口方式。市で収集した燃やせないゴミを細かく分別し、民間業者が引き取り、リサイクルしています。分別作業にかかわるパート代はもちろん、利益も出ているとの事。また、帯広市では今年の五月から牛乳パックの分別回収を開始しました。市の行政がゴミの収集作業の中で牛乳パックの回収を行うのは道内で初めてという事です。限られた資源の有効活用とゴミの減量化がねらい。年間二十万個が目標で、古紙再生に回した収益を「帯広の森基金」として積み立て、植樹等に充てるといふ。まさに市民と行政が一体化した取り組みと言えると思います。

この牛乳パックの再利用については、各地で住民の動きが活発になってきていますが、採算がとれないという理由で受け入れる業者が少ないようです。しかし、倶知安町にある「道栄紙業㈱」のように古紙再生を主に操業している処もありますので、この先、受け皿は広がることと期待しています。

いずれにしても家庭から町へ、市から道へ、さらに国規模で考えなければならぬゴミ問題ですが、ではどうすべきか。生産、流通、消費のすべてを通したリサイクル



システムづくり。その方向づけを示唆したユニークな記事を目にしました。

「ゴミ減量化を語る女性の会」が厚生省に提言したもので、使い捨て商品や過剰包装にはゴミ処理のための目的税の上乗せをとか、再生紙を使う会社には税制上の優遇を。また再生利用が困難なプラスチックボトルでの販売禁止等使い捨て文化の改造を目指したものであります。

資源保護のために、地球のために、そして何より子孫のために私達ができることから始めるしかありません。私達一人ひとりの小さな努力の積み重ねが清掃行政への働きかけとなり「増え続けるゴミ」にストップをかけることができることを確信しています。



乗ってみましたゴミ収集車

市民 体験隊

リポーター
岩佐 春江



一人ひとりが 危機感をもちて

「二年先を考えるなら種を蒔け。十年先を考えるなら木を植えよ。百年先を考えるなら人を育てよ。」という言葉を何かの本で読んだ事があります。

今、地球環境の危機という現実を目の前にして、あなたの家庭は、あなたの家族は、そしてあなた自身は地球のために何かをしていますか、という自然からの問いかけに人々は皆、何かをしなければと感じているはずで

我が家を例にとってみると、生ゴミはすべて土に埋める。ビン類はPTAや町会の廃品回収へ。新聞紙などの可燃物は実家のボイラーの燃料へ。残るは不燃物。これがやっかいもので発泡スチロール製の容器やそれに伴うラップ類は燃やすとイヤな臭いがするし、家庭用のボイラーでも高い温度でないと燃えきらないのです。週一回の収集日に出す量は、スーパーの袋に二つになる事があります。これらのゴミがどのように処理されているかを追跡調査してみたいと思っていたところ、ゴミ収集車に乗せていただけるという事で作業服姿も勇ましく、さっそく同乗、出発です。

最初の積み込みで、まずビックリ。まだまだ使えそうなイスが二脚、他のゴミと一緒に整然と捨てられていました。(もったいない、家で使えそう)そんな私の気持はおかまいたしに、係の人達は平気な顔で作業を進めていく。こんな事で驚いてはダメらしい。一回目は自転車、編機、ステレオがあったとか。ちなみに清掃工場の事務所に置かれている長イスも市民が捨てたもので他にもスキーや時計など新品同様の物が捨てられているとのこと。

ゴミステーションを数箇所回っていくうちに係の人の困っている事の一つに、ゴミ箱の設置がある」と聞きました。収集日以外の投げ

捨てや分別の不徹底などとても不衛生だという事です。今回も実際に不燃物と一緒に生ゴミが捨てられ、虫がたかっています。できればゴミステーションは無形化で収集当日は網で覆うのがいちばん作業もしやすいそうです。

積み込み作業に係の人と同じ位のペースでできる様になった頃には、汗びっしょり。収集車も満杯千歳の最終処分場へと向いました。この処分場、五十四年に可燃物の焼却工場が完成する以前から利用されているものらしいが、現在はまわりの土地といくらも段差がなくなっていました。以前は深い谷になっていたという話を聞き、なにげなしに捨てているゴミの量を改めて考えさせられてしまいました。短い時間の体験を通じて、私達の出来る事、またやらなければならぬ事は何かを考えてみました。

ゴミの減量化を基準に、リサイクルの徹底。(牛乳パックの回収などは行政サイドで実施してほしい)使い捨ての商品は家庭に入れない、入れさせない。(はじ箱持参運動もそのひとつだと思います。)

個人だけでなく、国

や企業レベルでもさまざまな研究や努力はこたつてはいらないようです。例えば太陽熱で分解され土に同化するポリ袋や再生紙で作ったトレイを利用している大手スーパーがそれです。

一人ひとりが自分達の手で実施する事で、自然が守られ、また守るといふ事が将来の子供達の命をいかに守るかという事と同意語であるといふくらい危機感をもって私達の生き方を考えなおしてみませんか。もはや、知らないでは済まされないとこまできていますように思います。



いきいき人とまち インタビュー

北海道マリリンパーク歓迎期成会

会長 山本 照雄さん



歓迎期成会であいさつする山本会長

待望の「登別マリリンパーク・ニクス」が7月20日オープンしました。観光登別に新たな魅力を加えるとともに登別地区の将来的なまちづくりの方向を見定めるうえで一つの転機をむかえたと言えるでしょう。今回は、オープンにあたって「北海道マリリンパーク歓迎期成会」の山本照雄会長にお話をうかがいました。

——オープンしてから暇をみつければ、マリリンパークや駅前周辺へ行ってみるんです。人の流れが気になるといふか、どの位のお客さんが来てどうなるのかを見たいと思います。……オープン初日の二十日は、新聞報道によると五千人ほどの入場者があったようですが、たとえば五千でどうなのか、万人入ればどうなのか、まち全体への波及というかそんなものを肌で感じたくて出かけて行くんです。オープンしたばかりですからまだマリリンパークに来たお客さんが町の中へ出てくるというのはあまり見かけませんが、今後どんな流れになるか気になります。

昭和六十年、登別地区への水族館建設構想がもち上がった時、直ちに歓迎期成会を設立、会長の重責を担うこととなった山本さん。オープンを喜ぶだけでなく気持は今後の動向に向っている。

——歓迎期成会は、地元のお店会、連合町内会、青年会、婦人会、飲食店組合がひとつになって昭和六十年に結成したんです。発想は、まちの活性化につながるこの構想を支援しようということと、この計画と連動した中でのもちづくりを住民自らが議論し考えようということでした。ですから進出してくる企業や行政の仕事に対しても

地区住民が一つにまとまってできるものはお手伝いして行こうと考えたのもう一つは、わたしたちのまちづくりの考え方や希望などを住民がバラバラに言うのではなく集約していく場にしていきたいと考えたわけです。

まちづくりの意識は、この構想が都市公園とし建設されることになってからいっきに盛り上がってきました。フンペ山や漁港周辺を含めた海洋リゾートとしての公園計画ですから、まちを大きく変ぼうさせますし、地元にも与える影響は大きいんです。私たちの会は、このオープンで目的を果したわけではなく、第二期計画も含めて北海道ビーチパーク計画の完成まで続けなければと考えています。

マリリンパークのオープンを目前にした十五日、皆さんは記念イベントに取り組まれましたが、その感想は……

——あれだけのイベントを地区住民が一致団結して、それぞれみんな真剣に取り組み成しとげたエネルギーはすごいと思います。あの盛り上がりや勢いそれに熱意を今後につなげていけるようにしたいと思っています。

それに、まちづくりは単に商店会や飲食店組合の人だけのものではなく、ここに暮らす人全部が参加するものですから、そう言った意

味で一般の人でもまき込んだ形のエネルギーは今後のまちづくりに欠かせないものだと思います。

最後にマリリンパークのオープンについてのご感想を……

——今回のオープンによって私たち地区住民は一つの「種子」をもったと考えています。それは、まちづくりの「種子」だと思います。今後、この種子をどうまちの将来に結びつけていくか、どう育てていくかが私たちの課題でしょう。ですから私たちの課題としてはスタートだと思えます。また、本当の意味でスタートにしなければならぬと考えています。



歓迎期成会は多くの市民でにぎわいました。

友達の輪



佐藤 駿太郎 さん
(70歳) 片倉町在住

花に囲まれて… 幸せです。

今年は何制二十周年ですね。七月は私の七十歳の誕生月とこんな記念の年に広報に載せていただけたらなんて幸せです。
二十八年間新日鉄にお世話になり、退職後は病院に十年勤めました。今は好きな花と自然な生活をしています。でも忙しいですよ、生きものですからね。一番忙しい

のは春の植え替え、五、六百鉢あります。大変ですけど花の咲くのをみた時はうれしくてね。今年大阪の花博に出ているヒマラヤの青いけしが咲いて取材にみえましたよ。盆栽から高山植物、山や野の草花と珍しい花もあります。若い時はこの花がほしいと思えば多少無理をしても手に入れましたが今はそんなに執着しなくなりましたね。

「健康」。そうですね、自然と共に生活し、気持ちのもち方ですね。これは私流ですが葉草を四種類ほど三年位飲んでいますよ。それに若い時から山登りが好きで、北海道の山はほとんど登りました。遭難しかかったり、熊に出合ったこともありました。

毎月一回開催している植物友の会の集まりが楽しいんです。気候のいい時期は道内各地を歩き、冬はスライドなどで勉強会をしています。歳をとってくるとボケますからね。いい仲間や友達に恵まれています。人づきあひも大切ですよ。それに健康で好きなことに打ち込めるのは何よりの幸せですね。

（リポーター感・自然心、自然体
が何よりの健康法、実行哲学にまさるものなし。広瀬淑子）

今回は、佐藤さんご紹介の片倉町在住・今田ヒデさんです。
お楽しみに!!

こ・ん・な・と・い あ・ん・な・と・い

私の好きな場所

其の四 札内不動の滝

日本工学院北海道専門学校を過ぎて五百メートル程進むと、不動の滝入口があります。看板の文字は薄れて見えなくなっているので注意が必要でしょう。

この通りを進むと道が途切れ、牧草地が目の前に広がり、その向こう側に立つ木々が一部切れ込んだところが本当の入口。

この斜面についているつづら折の小路を沢まで降り、上流に向かって十五分程、汗をふきふき歩くと「ザーツ」という音とともに二十以程の高さから勢いよく、鉄砲水のように水が噴き出しています。そこが札内不動の滝です。

昭和六年に高野山明泉院より譲り受けた不動明王が祭られていたところから、不動の滝と呼ばれるようになりました。この不動さ

ん、過去の大雨の際に流されてしまった。今は無く見ることはできません。滝の裏側に入ることもできません。夏の涼を求めるハイキングにはうってつけです。ただし牧草地を歩くことになるので、所有者の三原さんのお許しを得てから行くのが礼儀でしょう。



富浦墓地行き

無料墓参バスを運行します

8月13日～8月16日

市は、お盆の時期に市内の3地区（上鷲別・若草・幌別）から富浦墓地まで、貸切り無料墓参バスを運行します。
 停車場所・時間を確認のうえご利用ください。
 ▶問い合わせ 保健衛生課（☎51771）

〈墓参バス運行時刻表〉

上鷲別・鷲別地区～富浦墓地				若草・幌別地区～富浦墓地				幌別・登別地区～富浦墓地									
上鷲別発 トヨタバス	10:00	13:00	富浦墓地発	11:30	14:30	上鷲別発 旭ヶ丘団地バス	10:00	13:00	富浦墓地発	11:35	14:35	登別高校発 バス	10:00	13:00	富浦墓地発	11:25	14:25
松木商店	10:02	13:02	市役所入口 バス	11:36	14:36	旭ヶ丘団地 バス	10:01	13:01	千歳4丁目 バス	11:45	14:45	幌別西小 学校バス	10:00	13:00	登別小学校 前バス	11:27	14:27
鷲別中学校 前バス	10:06	13:06	鷲別本町 前バス	11:37	14:37	若草入口 バス	10:02	13:02	市民ホール バス	11:46	14:46	市民会館 バス	10:01	13:01	登別中学校 前バス	11:28	14:28
鷲別小学校 前バス	10:07	13:07	あかしや 前バス	11:42	14:42	若草中央 バス	10:03	13:03	電報電話 局前	11:49	14:49	ホームステア ー前バス	10:02	13:02	登別バス	11:29	14:29
東バス 別	10:08	13:08	開発局 前バス	11:44	14:44	旭ヶ丘団地 バス	10:04	13:04	みゆき 前	11:50	14:50	社宅十字 街	10:03	13:03	登別駅前 バス	11:30	14:30
はまなす 団地バス	10:09	13:09	富浦バス	11:45	14:45	千代の台 団地バス	10:05	13:05	阪井商店 前	11:53	14:53	中央町5丁 目	10:04	13:04	富浦バス	11:35	14:35
帝国酸 素	10:11	13:11	西富 バス	11:47	14:47	新生町1丁 目	10:06	13:06	登別大谷 校前バス	11:55	14:55	幌別小 学校	10:05	13:05	すすらん 団地	11:37	14:37
西富 バス	10:13	13:13	帝国酸 素	11:49	14:49	新生町2丁 目	10:07	13:07	緑町2丁 目	11:56	14:56	東小 学校	10:08	13:08	幸町3丁 目	11:38	14:38
富浦バス	10:15	13:15	はまなす 団地	11:51	14:51	富浦小 学校	10:08	13:08	桜木 地	11:57	14:57	ソーダー 工場	10:09	13:09	三洋工 業	11:40	14:40
開発局 前	10:16	13:16	東バス 別	11:52	14:52	道南バス 若山	10:09	13:09	総合体育 館	12:00	15:00	三洋工 業	10:10	13:10	ソーダー 工場	11:41	14:41
あかしや 前	10:18	13:18	鷲別小 学校	11:53	14:53	総合体育 館	10:10	13:10	道南バス 若山	12:01	15:01	幸町3丁 目	10:12	13:12	東小 学校	11:42	14:42
鷲別本町 前	10:23	13:23	鷲別中 学校	11:54	14:54	桜木 地	10:13	13:13	富浦小 学校	12:02	15:02	すすらん 団地	10:13	13:13	幌別小 学校	11:45	14:45
市役所入 口	10:24	13:24	松木商 店	11:58	14:58	緑町2丁 目	10:14	13:14	新生町2丁 目	12:03	15:03	富浦バス	10:15	13:15	中央町5丁 目	11:46	14:46
富浦墓地	10:30	13:30	トヨタ上 鷲別	12:00	15:00	登別大谷 校前	10:15	13:15	新生町1丁 目	12:04	15:04	登別駅前 バス	10:20	13:20	社宅十字 街	11:47	14:47
						阪井商店 前	10:17	13:17	千代の台 団地	12:05	15:05	登別バス	10:21	13:21	ホームステア ー前	11:48	14:48
						みゆき 前	10:20	13:20	旭ヶ丘団 地	12:06	15:06	登別中 学校	10:22	13:22	市民会 館	11:49	14:49
						電報電 話局	10:21	13:21	若草中 央	12:07	15:07	登別小 学校	10:23	13:23	幌別西 小	11:50	14:50
						市民ホ ール	10:24	13:24	若草入 口	12:08	15:08	富浦墓 地	10:25	13:25	登別高 校	11:50	14:50
						千歳4丁 目	10:25	13:25	旭ヶ丘団 地	12:09	15:09						
						富浦墓 地	10:35	13:35	上鷲別 着	12:10	15:10						

「愛称」決定

登別駅前通りと登別マリンパークを結ぶ、市道東町三十六号線コミュニティ道路の愛称を市が募集したところ、百十六点の応募がありました。選考委員会で審査し愛称及び佳作が決定しましたのでお知らせします。

◎愛称名 「メルヘンストリート」

▼命名者 齊藤正紀さん（市内中央町）

▼命名理由 北歐ロマンと海洋ファンタジーの世界へ通じるおとぎ話の国の入口にマッチさせたというもの。

◎佳作 「マリンロード」

▼命名者 阿部俊枝さん、上野雅春さん、北山久雄さん、高井慎悦さん、古本年男さん

▼命名者 上石正勝さん

グリーンチケットでお支払いください

―し尿処理手数料―

七月一日から、し尿処理手数料は「グリーンチケット」でお支払いただけます。

「グリーンチケット」は各地域の取り扱い所で販売していますので、事前に購入してください。

なお、日中常に留守にする家庭等で、グリーンチケットで支払いのできない方のみ、納入通知書・

口座振替での支払い方法がありますので環境衛生課（幸町二丁目四番地 ☎52958）へご相談ください。

（グリーンチケット取扱所追加指定）

●登和石油（登別本町三丁目）

優良運転者を表彰します

登別市交通安全協会は平成二年度優良運転者を表彰します。

無事故を願い、安全運転に努めた証として申し込みされますようお願いいたします。

▼申し込み資格 五年間無事故無違反で室蘭地区交通安全協会協力会員となっている方（表彰申請時に加入料千円を添え加入しても構いません）

▼申し込み 無事故無違反証明書（平成二年七月一日現在のもの、手数料七百元、用紙は警察、登別市交通安全協会にあります。）と免許証、印鑑を持参のうえ申し込みください。

▼申し込み期限 平成二年八月三十一日

▼申し込み・問い合わせ 登別市交通安全協会事務局（市役所市民課内 ☎51855内線123）

自転車の危険な乗り方は絶対によめましょう

絶対によめましょう

生涯学習

コーナー

あなたの生きがいは

生涯教育推進室

人生八十年代と言われて久しいが、果たして長寿社会という名の通り、その歩みが見えますか。

私たちは、かつては「忙しい」ことを美德のように考えていました。社会の在り方も、人間の生き方も、労働を通じていかに経済の価値を最大に生み出すか、という

構造になってきたからです。まさに人生五十年時代の姿でした。そして、その積み重ねの結果が、日本構造協議にみられるように、日本の文化や習慣の領域にまで及び

「我が内なる障壁」なのかも知れません。
このように、労働を最優先した姿から、人生八十年代にあつての生き方が考え直され、週休二日制の導入の促進をはじめとして、欧米に近づく労働時間が模索されつつあります。

人生八十年、それは、
○五十年——子どもの時期
○十五年——教育の時期
○四十年——労働の時期

○二十年——リタイアメント

この成長過程それぞれに見合ったレジャー人生（自由時間）を充実させていくことが求められています。私たちの生涯は、

○人生七十万時間（八十年間）
○労働時間八万時間（十分の一強）
○自由時間二十一万時間以上
※全生涯の三分の一強にもなります。

「忙」とは、心を亡くすと書きませんが、要は心を失うということに通じます。これからの社会では生涯を通して「性」の生活が求められています。「性」とは、広義に「心を生かす」ということです。このことを難しく言えば、自己の存在——自己開発の価値を見出して生活を豊かにするということになり。すなわち、仕事から忙しからず、これからの社会は通用しないし、将来が開かれませんか。あなたのライフサークルに目標を持ち、生きがいを求めることが課題です。

このような生涯学習社会を旨とし、学ぶ方々への情報を提供したり、学ぶ機会や場の提供を積極的に行行政機関が行うことが大切であり、本年度は、ふれ合い広場実行委員会による諸々の事業や、従来の社会教育事業を一層充実することに努めています。

「生涯学習」にかかわってご相談にも応じていますので、ご利用をお待ちしています。

「子育てセミナー」受講者募集

子育てセミナーでは、家庭教育の在り方について学習会・レクリエーションなどを開催し、親子の交流を図ることを目的としています。

- ▼参加対象 乳・幼児をもつお母さんなど
- ▼参加料 千五百円（教材費、バス借上料、傷害保険料など）
- ▼申し込み・問い合わせ 教育委員会社会教育課（☎881100）
- ▼受け付け 八月十日より（定員になり次第締め切ります）

※学習当日は託児を留意しています。

[子育てセミナー日程表] (※自然めぐりの日程は別に定めます)

	1	2	3	4	5
中央地区	8月27日(月) 子育てについてのお話し 教育学	8月29日(水) 親子軽スポーツ	8月31日(金) おいしいケーキ作り	9月3日(月) 親子折紙	9月6日(木) お母さんたちの子育ての話し合い
鷺別地区	8月21日(火) 子育てについてのお話し 教育学	8月23日(木) 親子軽スポーツ	8月28日(火) おいしいケーキ作り	8月30日(木) お母さんたちの子育ての話し合い	9月4日(火) 親子折紙
登別地区	8月31日(金) 子育てについてのお話し 教育学	9月4日(火) 親子軽スポーツ	9月7日(金) おいしいケーキ作り	9月11日(火) 親子折紙	9月14日(金) お母さんたちの子育ての話し合い

●開催時間：午前10時～正午 定員：中央・鷺別地区各50名、登別地区30名

観光懇談会を開催します。

市は、やがてくる本格的な余暇時代に対応した魅力ある観光地づくりを目指し、現在、観光振興基本計画の策定に向けて具体的な検討を進めています。市民の皆さんから、広くご意見をうかがいながら計画づくりを行うため、昨年度に続き観光懇談会を開催します。多数の市民の方のご参加をお待ちしています。

観光懇談会についての詳しい内容は、観光経済部観光室（☎52753）までお問い合わせください。

全世帯に招待券をプレゼント

観光登別の新たな幕開けとなる登別マリンパークが七月二十日オープンしました。これに先だち七月十二日に同マリンパークの曾我部社長と猪俣支配人が市役所を訪れ、オープンを記念して市内全世帯に招待券をプレゼント。

一世帯につき一枚、一万九千五百四十世帯（六月末現在）分の記録が上野市長に手渡されました。寄贈された招待券は、町内会組織などを通して各世帯に配布される予定です。

[観光懇談会開催日程表]

曜日	地区名	開催場所	開催時間
8月6日(月)	鷺別地区	鷺別公民館	18:00-20:00
8月7日(火)	幌別地区	鉄南ふれあいセンター	18:00-20:00
8月8日(水)	登別温泉地区	観光会館	10:00-12:00
8月9日(木)	登別地区	登別公民館	18:00-20:00
8月10日(金)	カルルス温泉地区	国民宿舎オロプレ荘	13:00-15:00

クロスカントリーレース参加者募集

北海道クロスカントリーレース実行委員会は、第4回目を迎えるクロスカントリーレースの参加者を募集します。

- ▶日時 9月9日(日) 午前10時スタート
- ▶場所 札内台地
- ▶募集期限 8月20日(月)
- ▶参加料 一般・高校生以上…1,500円、中学生以下…1,000円、(障害保険料を含む。参加料は返金しません。)
- ▶申し込み先・方法 登別青年会議所(〒059 登別市中央町5-6-1 ☎1468)へ参加申し込み書及び誓約書に記入し、参加料を添えて申し込んでください。



登別温泉湯沢神社下の三叉路から地獄谷方向をみると、すぐ傍に高さ三メートル、幅二メートルの黒御影石の立派な頌徳碑がある。滝本金蔵翁、栗林五朔翁の温泉開発の功績を讃えて建立されたものである。

滝本金蔵翁は武蔵国出身（埼玉県本庄市）、幌別場所請負人岡田半兵衛のあと温泉に湯宿をつくり登別から温泉まで自費で新道を開削し四人乗りの円太郎馬車を走らせた登別と温泉の先駆者である。

栗林五朔翁は新潟県出身、明治三十八年北海道炭鉱汽船の石炭荷役を引き受け、その後王子製紙、日本製鋼所の建設資材、機械類の荷役請負などで事業を拡大し、北海道でも伝統のある企業に成長させた。現在の栗林商会である。

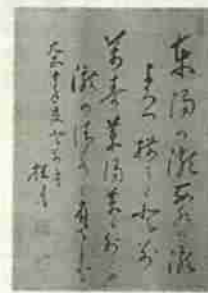
大正二年（一九一三）滝本館・温泉施設・土地・水道営業権などを買収し、大正四年馬車鉄道、同七年軽便鉄道、同十四年（一九二五）五十人乗りの電車を走らせたなど温泉の近代化と観光開発に尽くした力は大きい。

この頌徳碑は、二百七十一文字で綴られ比田井天来鴻書となっている。天来は現代書道界の書聖と言われた桑原翠邦、金子鶴亭の師で書道界の重鎮である。遠くから訪ねる人も多のに地元で知っている人は意外に少ない。文化協会の岩原秀夫会長から資料を頂く前

郷土史点描

登別温泉の文化財(II)

登別郷土文化研究会 宮武 紳一



までは私も同様であった。隣りの五人の翁の「功労碑」の三文字も天来によるもの。

また、頌徳碑の表題字は遠山満の書いたものであることに驚く。彼は福山藩士の筒井亀策の三男で母方の遠山家を継いだ。

明治政府の藩閥政治に強く反抗して入獄され、出獄後は自由民権運動に参加。玄洋社などを結成したあとは急進的な国権論を主張、朝鮮独立運動に失敗し日本に逃亡中の金玉均（親日派）を保護、三

と二階和室に展示公開されている。館長は石川雅有氏で修次氏のご子息である。お許しを得たので展示物の一部を紹介すると、土井晩翠・徳富蘇峰・与謝野晶子・高浜虚子や書家の金子鶴亭・桑原翠邦・伊藤東海・小原道城・中村春堂、画伯の川端玉章・伊藤晴雨・歌川国峯、短冊に中村不折・馬場孤蝶・河東碧梧桐、等々の作品で肉筆である。

国文学者大町桂月が大正十年来泉の折の

東湯の滝 西水の滝
よろつ揃うた 登別
萬寿 菜湯 菜もきくが
滝の清水も 肩をもむ。

明治・大正・昭和の三時代に常に民権派の大政治家として活躍した尾崎行雄も大正十五年に来泉し滝本館で疲れを癒している。

我行先ハ 何れな留ら無
幾色乃 地獄那かめて
思うかな

書順は右の通りだが、よみ方は、幾色乃、地獄那かめて思うかなが先で、政治に命をかけた兜堂の生き方が心に伝わるようである。高かっただろうな、と思いがらもよくこれだけの文化財を登別に残してくれた、と感謝の気持ち一杯である。

広報モニターを募集します。

ご意見をお聴かせください

市は、市民参加の広報紙づくりをすすめるため、次のとおり「登別市広報モニター」を募集します。

広報のほりべつへのご意見など日頃市の広報活動について感じていることをお聴かせください。

- ▶ 募集人員 5名
- ▶ 応募方法 8月20日までに市役所総務課広聴広報係（☎⑤1130）に電話でお申し込みください。
- ▶ 広報モニターの業務 (1)年2回開催する広報モニター会議に出席のうえ市の広報活動に関し意見を述べること (2)定期・随時に意見、要望等を文書で提出すること
- ▶ 資格 登別市民であればどなたでも結構です。

広報市民リポーター

やってみませんか

「広報のほりべつ」は、いま市民自らの企画で話題をおとどけする広報市民リポーターのコーナーを設けています。現在、5名の市民リポーターの方が毎月、企画立案に、取材に活躍されています。

市では、さらにこのコーナーを充実するため次のとおり広報市民リポーターを募集します。あなた自らの企画で市内の話題やまちづくりの動きなどをリポートしてみませんか。

- ▶ 募集人員 7名
- ▶ 応募方法 8月20日までに市役所総務課広聴広報係（☎⑤1130）に電話でお申し込みください。
- ▶ 資格 登別市民であればどなたでも結構です。

